

実践報告

札幌市立信濃中学校

(1) 研究内容

研究課題：「アイヌ民族の方を招いて行う体験的学習に関する研究」

- ・アイヌ民族の文化が日常生活のなかに存在することに気づき、関心を高める。
- ・歴史の中で、アイヌ民族が受けてきた差別などの境遇を理解する。
- ・多文化社会の理解に向けて、互いの違いを理解、尊重し合う態度を養う。

(2) 実践の内容

【実践①】「アイヌ文化体験までの学習」について

○ ねらいと学習内容

- ・宿泊学習で訪問した白老町のポロトコタンで学習した内容を再確認する。
- ・地理、歴史、公民の各分野で学習したアイヌ民族をはじめとする少数民族に関する既習事項やグローバル社会における先住民族の権利を理解する。
- ・国際社会における多文化社会の現状を理解する。

【実践②】「アイヌ文化体験」について

○ ねらい

- ・アイヌ民族の文化の講話を通して、文化の多様性を理解し、尊重する態度を養う。
- ・アイヌ文化を体験する機会を通して、多文化の理解と人権尊重の意識をもつ。

○ 学習内容

- ・アイヌ民族の方々の講話を聞き、アイヌ文化について理解する。
- ・器楽演奏や舞踏を鑑賞する。
- ・生徒全員で「輪踊り」に参加して体験する。



【トンコリとムックリの実演】

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・アイヌ民族についての講話を聞き、生徒は日常生活のなかでアイヌ文化がどのように生かされているかを理解した。特に、アイヌ民族の方々が自然とどのように共存しているかについて、生徒は興味・関心をもって聞いていた。
- ・生徒は、楽器演奏や舞踏に触れたことでアイヌ文化の理解をより深めることができた。とくに、楽器の奏でる美しい音色に感動していた。
- ・今回の体験をした3年生は、昨年度の旅行的行事においてアイヌ文化についての自主学習を行っており、より深い理解ができた。

② 課題

- ・社会科や総合的な学習の時間、特別の教科「道徳」などさまざまな教科や特別活動のなかで、アイヌ文化をはじめとする多文化への理解を深める指導内容や計画が必要である。また、それらの活動を通して多文化理解や人権を大切にすること意識をもち、社会へ参画する態度を育てていくことも必要である。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・生徒はアイヌ民族の方々の講話を聞くことで、アイヌ文化のすばらしさを再認識していた。また、生徒自身が現代社会を見つめ直すよい機会となった。
- ・それぞれの文化を尊重する姿を育む機会として、楽器演奏や輪踊りなどの体験的な学習がより深い理解を生んでいた。
- ・生徒のみならず、教師も人権教育や文化の多様性を理解する機会となった。



【輪踊りを全員で体験】